

総合的な学習の時間 福祉体験～手話体験コース～

厚木市立玉川中学校



単元（題材）目標

福祉に関する体験学習を通して、将来の福祉社会を担うために必要な、思いやりの気持ちや助け合いの精神を伸ばす。

(1) 実施時期 11月上旬

(2) 対象（学年等・人数）

第2学年 39名



(3) 指導者（教諭・外部講師等）

本校教諭：第2学年所属 1名

外部講師：厚木市手話サークル「あゆの会」より（聴覚障がいの方1名含む） 2名

(4) 実施内容

1. 講師の方による手話での自己紹介
2. 手話についてのお話 「手話ってなに？」
3. 手話体験（講師の方とともに手話を実践しました。）
 - ◎ 伝えてみましょう ◎ 手話で表す単語
 - ◎ 聞こえない人と話す方法 ◎ 自己紹介をしてみよう
4. 聞こえない人達の生活についてのお話（日常の生活や今と昔の違いなどを聞くことができました。）
5. 質疑応答

(5) 成果

- 「耳が聞こえない人の大変さ、そしてそれを乗り越えたすごさ、耳が聞こえない人とのことを理解してそばにいる優しさなどをじかに感じ、とても心があたたかくなりました。手話は耳が聞こえない人と聞こえる人をつなぐとても素敵なものだということにあらためて気づかされました。」
- 「手話には触れたことがなかったから楽しかった。手話も一つの言語として広めることで耳が聞こえない人への理解が深まると思った。」
- 「最初に講話して下さった方は、普通に耳が聞こえているのかと思いました。町中にいると普通の人だと思うので、とても不便であり、危険が伴うんだなと思いました。病院などでは、耳の聞こえない方の工夫をしているけど、町はまだまだ住みにくいと思います。もっと誰もが住みやすいと思える町にしていきたいです。」

など、参加した生徒達からの感想が寄せられた。障がい者とふれあう機会として、手話での会話の様子や聴覚障がいのある方の言葉にならない言葉や喋り方などにふれあっただけでも、生徒達には刺激的で衝撃的であった。本校ではインクルーシブ教育を推進し、この学習は福祉学習の一環として行っているため、この手話体験を通して、障がい者への理解や共生について考える良いきっかけになったと思われる。今後もぜひ継続して続けていきたい。

(6) その他

生徒の感想の中には「自分は障がいがなく生まれて良かった」というような記述も一部見られ、ねらいに十分に到達できなかった生徒もいたように思われる。思いやりや助け合いの気持ちを、学校生活全般を通して3年間かけて少しずつ育成する必要性を感じた。